



さいたま市

# さいたま 来ぶらり通信

さいたま市図書館報

2013年8月15日発行

Contents

わがまちSai発見……………1,2

本棚ぶらり 大人も楽しめる絵本の世界……………3

さいたま市図書館ビジョンを策定しました

ハロー！来・ぶらり 北図書館……………4

わがまち

はっけん

Sai 発見

祝！

富士山世界遺産登録

さいたま市の富士塚を探る

今年7月に富士山がユネスコの世界文化遺産に登録されました。それを記念して、さいたま市に残る富士塚をご紹介します。



## 富士信仰と富士塚

富士山は古来より、自然崇拜の対象として信仰されてきました。室町時代には角行かくぎょうという修験者が現れ、富士山麓の人穴ひとあなで苦行したのち、富士山に登りました。角行は富士講の開祖とみなされています。富士講とは、富士山を信仰する人々の集まりのことです。その後、江戸時代に食行身祿じきぎょうみろくが富士信仰を正直・勤勉などといった通俗的な道徳の実践へと切り替えました。

富士講の信徒は、富士登山の際に頂上から日の出を拝んだあと、「お鉢回り」と称して頂上を一周しました。これを「富士禅定ふじぜんじょう」といいます。また、本物の富士山に登るだけでなく、富士山を模して作られた小山に登ることも「富士禅定」と称していました。このような小山は「富士塚」と呼ばれています。

江戸時代には多くの富士塚が富士講の講社によって築かれています。当時は富士塚から遠く富士山を望むこともできたようです。

富士講は江戸周辺にも広まり、埼玉県内にも月三講つきさんこう・丸宝講等まるたからこうといった講がありました。これらの講により築かれた富士塚はさいたま市にも残っており、現在も見ることができます。場所によっては、7月1日に子ども

の健やかな成長を願う「初山はつやま」という行事が行われます。北区吉野町の浅間神社などでは、神主によるお祓いのあと、新生児の額や着物の襟に朱印を押し、団扇うちわを授与します。

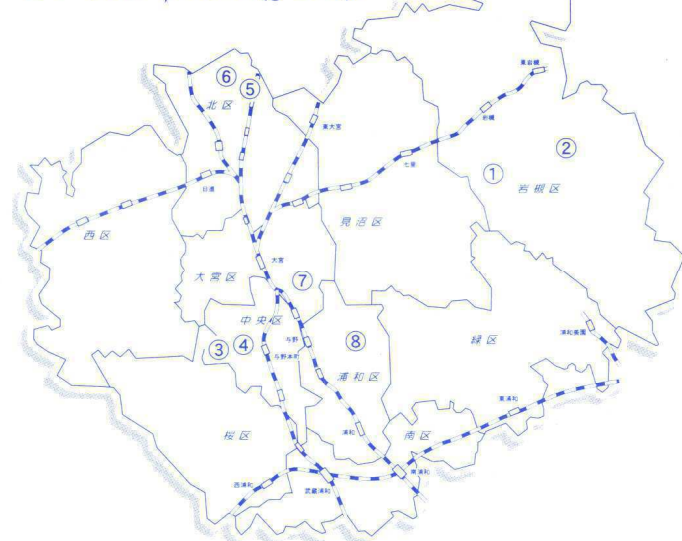


## さいたま市の富士塚

### ① 岩槻区柏崎 久伊豆神社

うっそうとした木々に囲まれ、「村の鎮守様」といった佇まいの久伊豆神社は岩槻区柏崎にあります。本殿から少し離れたところに塚があり、頂上の石碑には「浅間大神」と刻まれています。

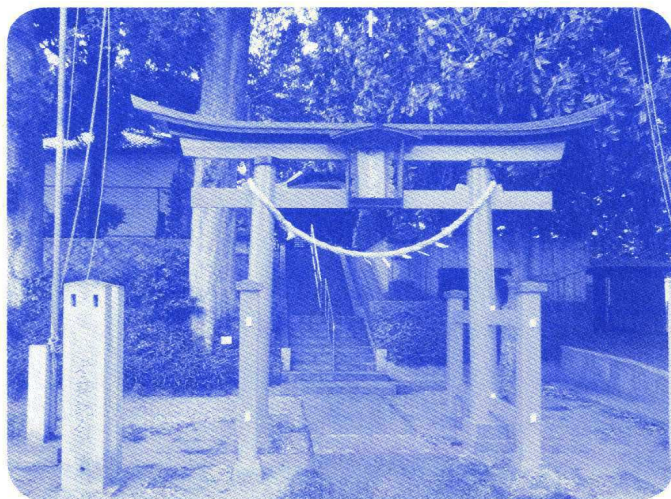
## さいたま市内の富士塚



## ② 岩槻区府内 富士浅間神社

本殿が小高い塚の上にある神社です。自然の丘陵上に浅間神社を勧請した例は深谷市にもあり、岩槻区の富士浅間神社もそのひとつではないでしょうか。

本殿は20年ほど前に建て替えられたとのこと。鳥居の朱色も鮮やかです。



富士浅間神社の鳥居

## ③ 中央区八王子 浅間神社内

現在の中央区八王子一丁目周辺はかつて「字富士塚」という地名でした。浅間神社があり、本殿の北側に隣接して富士塚があります。塚が作られた時期は不明ですが、少なくとも明治時代にはあったものと思われます。

## ④ 中央区本町西 与野公園内 スリバチ山

与野公園内のスリバチ山が富士塚であったことは現在あまり知られていないようです。「富士登山五十八度」と「小御嶽 石尊」の二つの石碑が富士塚であったことを示しています。公園内には与野七福神の一、寿老人を祭った天祖神社や小さな弁天社もあります。



与野公園内スリバチ山の石碑

## ⑤ 北区吉野町 浅間神社

敷地内にはお社のようなものも鳥居もない富士塚ですが、頂上の石碑に「浅間神社」とあります。「狐の穴」

という胎内穴があったという言い伝えがあります。

## ⑥ 北区吉野町 つつじヶ丘公園内

つつじヶ丘公園内の富士塚は、小さいながらも九つの石碑が立っています。頂上の石碑には「浅間大神」とあり、塚の南側には鳥居も立っています。

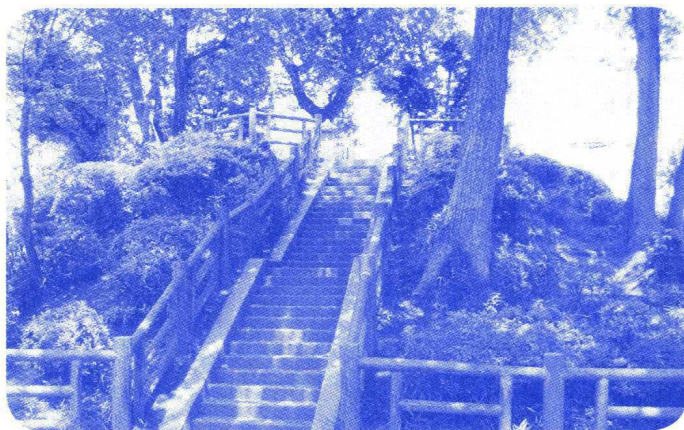
## ⑦ 大宮区浅間町 浅間山

「浅間祠」という文字が刻まれた石碑が塚の頂上の鉄製の祠に収められています。石碑の正面の文字は山岡鉄舟の筆によるもので、建立は1885（明治18）年です。

## ⑧ 浦和区大東 大東北児童公園内 塚

大東北児童公園の北側を占める塚は富士塚との言い伝えがあり、付近の人から「お山」と呼ばれていたそうです。

現在、塚の頂上にあるのは庚申塔で、富士塚であるとする石碑などはありません。南北に設けられた階段の途中で平坦なところがあり、塚の中腹を一周する「お中道」の痕跡とも考えられます。



大東北児童公園内の塚

ここで紹介したもののほかにも、市内には多くの富士塚があります。世界遺産への登録により富士山が世界中から注目を集める今、市内の富士塚を訪ね歩き、そこに込められた先人たちの富士山への思いを感じてみてはいかがでしょうか。

### 【参考文献】

- ・さいたま市文化財調査報告書 第2集 さいたま市の塚調査報告 さいたま市教育委員会生涯学習部文化財保護課/編 さいたま市 2002年
- ・さいたま市史料叢書 2 神社明細帳編 さいたま市総務部市政情報課/編 さいたま市 2003年
- ・日本の近世 14 文化の大衆化 竹内 誠/編 中央公論社 1993年



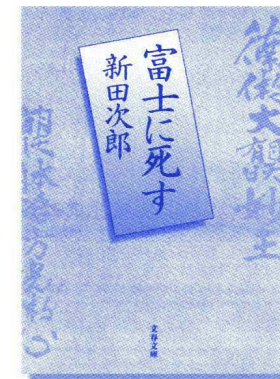
# 本棚 ぶらり

## 『富士に死す』

新田次郎著 文藝春秋 2004年

数々の「富士山もの」の小説を描いた新田次郎氏が、江戸時代中期の行者である食行身禄の波瀾に富んだ一生を取り上げた作品です。富士講は身禄の死後、江戸で爆発的に広まりましたが、実際のところ、身禄の生涯の詳細については分かっていません。その謎に包まれた半生を、著者が深い洞察とイメージネーションで鮮やかに表現しています。

小説のクライマックスでは、身禄の“入定”が描かれます。入定とは、食を断ち、水だけで飢えと戦い、静かに死に近づいて行こうとする宗教的自殺のことです。



身禄は、「富士山は浅間大菩薩である。浅間大菩薩の御恵みを受け、恩報感謝の誠を尽くすことによって人間は安定した生活ができる。」と誰にでも分かりやすい教えを説きました。特に、入定までの一ヶ月余りの間に弟子に説いた最期の教え『三十一日の巻』は庶民の心を広くとらえ、富士講は大衆が生んだ宗教として不動のものとなりました。

「人はなぜ山に登るのか」と問い続けてきた著者の視点で、大衆の心の糧となった富士講の軌跡が綴られています。

# 大人も楽しめる 絵本の世界 第4回

## 『富士山にのぼる』

石川直樹作 教育画劇 2009年



「〇〇ふじ」という異名を持つ山は、全国に300以上もあるとのこと。人々が富士山を霊峰として崇拜すると同時になじみ深い存在としてきた証拠といえるでしょう。

写真家であり冒険家である石川直樹が、初めての児童書として出版したこの本は、富士山に対する親しみと、畏敬の念が感じられる写真絵本となっています。作者は10代のころから世界を回り、2001年、当時の世界最年少記録で七大陸最高峰登頂を達成。2011年には土門拳賞も受賞しました。

美しく、迫力ある写真は、この本の大きな魅力です。最初と最後の場面で、山に挑む自身の後姿の写

真を入れてあります。背中で語ることで、冬山に挑む緊迫感は増し、ただ美しいだけではない作品に仕上がっています。

富士山への思いを込めた、簡潔で飾り気のない文章は、静かで厳しい冬山の世界にあっています。実は作者は、芥川賞作家である石川淳の孫なのだそう

です。巻末には登山の装備品も詳しく紹介され、富士山の動植物や歴史に関するコラムも付いています。作者の様々な「こだわり」が、随所に感じられる一冊です。

## さいたま市図書館ビジョンを策定しました

さいたま市の図書館は、今後の取組の方向を示すものとして、「さいたま市立中央図書館整備基本計画」を見直し、図書館の中長期的な未来像を示す「さいたま市図書館ビジョン」を平成25年3月に策定しました。

### ★図書館の使命は「地域の知の拠点」

このビジョンでは、「地域の知の拠点」になることを図書館の使命と定めています。

日常の小さな疑問や人生の大きな課題を考えたり、仕事や研究の課題を解決したり、趣味や教養を深めたり、知識と情報への要求は尽きることがありません。人間が成長し、自分で考え、判断するためには、さまざまな資料や情報が必要となります。

図書館は、考える材料や、調べる手段と方法を提供することにより、市民の「地域の知の拠点」となるこ

とができるのです。

### ★ビジョンの4つの目標と22の基本方針

図書館を取り巻く社会状況に対応し、「地域の知の拠点」としての図書館を進化発展させるため、次の4つをビジョンの目標に掲げています。

- ・ 知的好奇心に応える図書館
- ・ 生きる力を支える図書館
- ・ 市民とともに歩む図書館
- ・ 誰もが安心して使える図書館

さらに、サービスや資料の整備、管理運営の基本方針など、図書館の今後8年間にわたる取組の方向を示すために、4つの目標の下にビジョンの実現に向けた22の基本方針を定めています。

「さいたま市図書館ビジョン」は各図書館でご覧いただけるほか、さいたま市図書館ホームページでも電子版を公開しています。



## 北図書館

「観て聴いて参加して楽しめる」「使って満足」な施設として地域の方に親しまれているプラザノース。毎日のように美術展やクラシックコンサートが開かれています。その施設の一画に北図書館はあります。

この図書館は、さいたま市の中で2番目に新しく、年間100万点以上の貸出があります。吹き抜けのある明るい館内には図書約17万冊、雑誌約270誌、CD・DVD約8,000点を所蔵しています。資料の管理にはICタグを導入しているので、自動貸出機でスムーズに貸出ができます。

また、建物が免震構造でできているので、安心な環境で読書を楽しんでいただけます。先の東日本大震災の時も、本が1冊も倒れることはありませんでした。

館内にはインターネットに接続できるパソコンが5台あり、新聞記事などを検索できるオンラインデータ

ベースもご利用になれます。ご自分のパソコンをLANケーブルにつないで利用できる席も10席ご用意しています。

また、さいたま市立視聴覚ライブラリーが併設されており、団体の方を対象に16ミリフィルムや機材などの貸出を行っています。

毎週水曜日に行われるおはなし会や月2回の映画会にはたくさんの親子が参加されています。皆様のご来館をお待ちしております。



北図書館の入口

編集：さいたま来ぶらり通信編集委員会 発行：さいたま市図書館

<http://www.lib.city.saitama.jp/> 携帯電話用 <http://www.lib.city.saitama.jp/m/> (下のQRコードを読み込んでください)

北浦和図書館 832-2321	桜木図書館 649-5871	春野図書館 687-8301	与野南図書館 855-3735
南浦和図書館 862-8568	大宮西部図書館 664-4946	大宮東図書館 688-1434	岩槻図書館 757-2523
東浦和図書館 875-9977	三橋分館 625-4319	七里図書館 682-3248	岩槻駅東口図書館 758-3200
桜図書館 858-9090	北図書館 669-6111	片柳図書館 682-1222	岩槻東部図書館 756-6665
大久保東分館 853-7100	宮原図書館 662-5401	与野図書館 853-7816	武蔵浦和図書館 844-7210
大宮図書館 643-3701	馬宮図書館 625-8831	西分館 854-8636	

事務局：中央図書館 浦和区東高砂町11-1 TEL 048-871-2100

★★編集後記★★ 今回の「わがまちSai発見」ではさいたま市内の富士塚をとりあげました。取材をしていくうちに当時の人々の富士山へのあこがれを感じ取ることができました。

次回発行予定：2013年11月15日（年3回発行）

